

ハローキャリアワーク通信

令和7年9月吉日
教育総合センター
事業推進担当課

8月26日、京王電鉄との連携によるハローキャリアワークが行われました。会場は、京王井の頭線の富士見ヶ丘駅に隣接した富士見ヶ丘乗務区です。テーマは「鉄道の安全について考えてみよう!」です。小学5、6年生を対象に20名募集したところ60名の応募があり、大人気のプログラムとなりました。



当日はとても暑い中、欠席者を除く19名が富士見ヶ丘駅改札前に集合し、職員の誘導で会場へ向かいました。ふだんは入ることができない乗務区（車両の運行に携わる運転士や車掌の詰所）の建物に、今回特別に入場が許可されました。会議室で4グループに分かれて着席し、いよいよプログラムがスタート。

まず、助役の直井さんから鉄道の安全を守るための設備や工夫についてのお話を聞きました。熱のこもった説明に、子どもたちは聞き入っていました。次にヘルメットと安全反射ベストを着用し、富士見ヶ丘駅のホームに向かいました。実際に運行されている線路を横切る際



には、教えていただいた左右の指差し確認を全員が確実に行いました。ホームでは車掌が安全確認するための設備を確かめ、実際に車掌によるドアの開け閉めを間近で見学しました。

次はみなさんのお楽しみ、車庫に移動して本物の電車内での体験活動です。今回、車庫には井の頭線の電車が2編成、用意されていま



した。そのうちの1本人気のレインボー編成が、休憩状態からパンタグラフを上げて電気を入れるところから見学しました。さていざ車内へといったところで、ふだん使っているドアではなく前面にある「貫通扉」（緊急時の脱出

用の扉）を開けていただき、梯子を昇るという滅多にできない体験をしました。しかも緊急時に降りるものなので、昇ることはありえません。とても貴重な体験といえます。



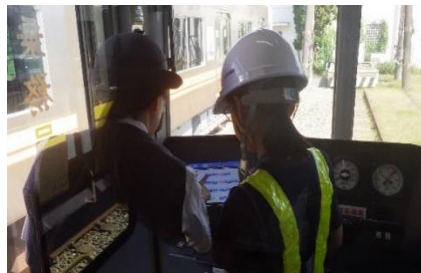
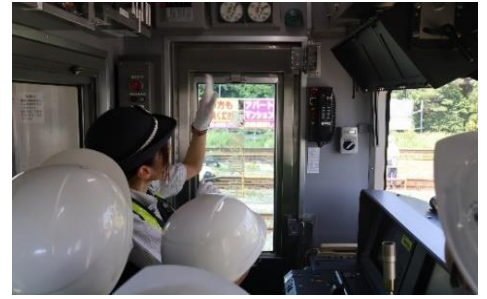
車内では、4つのグループに分かれて4つのコーナーを順に回りました。

① 緊急時にドアを手動で開ける訓練。非常用ドアコックのレバーを引いて空気を抜き、ドアを手で開けるのですが、思った以上に力が必要で、多くの子ども

たちが苦戦していました。希望者の何人かは、ドアに挟まる体験も（安全に配慮して）しました。



② 非常通報装置を使っの運転士との通話訓練。車内で発生した緊急事態を的確に運転士に伝える体験です。みんな落ち着いて話すことができました。運転士さんからは運転台周辺の様々な機器類についての説明も受けました。みんな興味津々でした。運転士さんのプロ意識を直に感じる場面でした。



③ 行き先表示の切り替え体験。運転士さんの指導の下、運転席で行き先切り替えのスイッチを操作して、実際に外に出て表示が変わっているのを確かめました。こだわりの「試運転」を表示できて、大満足の子もいました。



④ ドアの開閉と車内アナウンスの体験。子どもたちは緊張感をもって、車掌スイッチを操作して本物の車両のドアを開け閉めしました。マイクを手にして震える声でアナウンスする子もいれば、日頃から練習しているのか流暢に楽しそうに話している子もいました。



車内での体験活動を終えると車両をバックにして全員で記念写真を撮り、その後会議室に戻って今日の振り返りをしました。



今回のプログラムを通して、子どもたちは様々な学びを得ました。電車は安全を第一に動いていることを感じた子、運転士の大変さを実感した子、列車には様々な安全装置がついていることを知った子、いつも安全を守ってくれている人に感謝の念をもった子、駆け込み乗車をしないと決めた子、などなどです。そして何より、本物の運転士さんや車掌さんから直接話を聞いたことで、子どもたちが様々な事柄を印象深く受け止

められたことです。参加者のほとんどが、鉄道に興味関心をもっている子どもたちです。2時間の活動中、ずっと興奮状態でした。この体験でさらに鉄道への、電車への愛を深めるとともに、将来の仕事の選択肢の一つに定めたことでしょう。また、このハローキャリアワークの終了後、ご指導していただいた方々は全員、井の頭線の運転の業務に携われたとのこと。京王電鉄の社員の皆様の献身的なお力添えに、心から感謝いたします。